



表1 調査概要

調査名称	旅行者動向調査2012(公益財団法人日本交通公社が毎年実施している旅行者動向調査の一環として実施)
調査時期	2012年7月
調査方法	インターネット調査
調査対象	全国16歳以上の個人(インターネットモニター)
調査項目	「ウォーキング観光」への過去の参加経験、今後の参加意向 「みちのく潮風トレイル観光」への参加意向 等
有効回答数	3,596票 (10代5.5%/20代14.3%/30代18.0%/40代16.1%/50代16.7%/60代17.4%/70代以上12.0%、男性49.6%/女性50.4%)

道に対する利用者の潜在意識を捉えておくことは重要であると考え、そこで、本研究では、その把握を目的として、利用者意識調査を実施した(表1)。この意識調査では、みちのく潮風トレイルに限らず、一般的な「歩くこと」を中心とした観光について、実態と参加意向を聞き、「みちのく潮風トレイル観光」への参加意向との比較を試みた。

## ウォーキング観光への参加状況

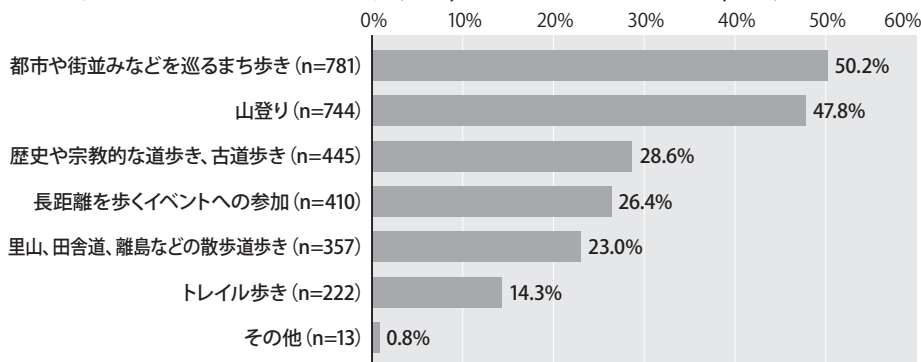
調査では、街歩き、登山やトレイル歩き等を広く含めて、歩くことを中心とした観光一般の参加状況を聞いた。このような「歩くこと」を中心とした観光「一般を、本稿では「ウォーキング観光」と呼ぶこととし、一方で「みちのく潮風トレイル」を利用した観光を「みちのく潮風トレイル観光」と呼び、比較をしていきたい。ウォーキング観光への過去の参加経験(図2)では、四三・二%が「経験がある」と回答し、今後の参加意向(図4)では、五六・五%が「参加したい」と回答した。また、内閣府が実施する「体力・スポーツに関する世論調査(二〇〇九年九月)」では、「この一年間に行った運動・スポーツの種目」として約五割が「ウォーキング」と回答しており、年々増加傾向にある。これらを踏まえ、ウォーキング観光は、すでに広く認知された市場であり、今後とも増加することが見込まれる。

参加経験があるウォーキング観光

図2 ウォーキング観光への参加経験 (n=3,596)



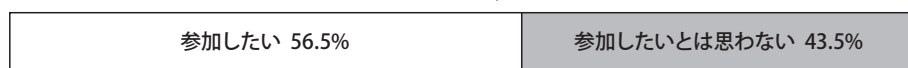
図3 参加経験がある観光の種類 (n=1,555 \*複数回答 MT=2,972)



\*意識調査の回答画面では、各回答項目についてかっこ書きで具体例を付した。

- 都市や街並みなどを巡るまち歩き (例: 下町巡り、町並み巡り、寺社仏閣巡り 等)
- 山登り (例: 山頂を目指す登山 等)
- 歴史や宗教的な道歩き、古道歩き (例: 熊野古道、お遍路 等)
- 長距離を歩くイベントへの参加 (例: 駅からハイキング、ツアーマーチ、歩け歩け大会、ノルディックウォーキング 等)
- 里山、田舎道、離島などの散歩道歩き (例: 里山歩道、フットパス 等)
- トレイル歩き (例: 山岳縦走、信越トレイルや高島トレイル、長距離自然歩道 等)

図4 ウォーキング観光への参加意向 (n=3,596)



の種類(図3)を見ると、「都市や街並みなどを巡るまち歩き(五〇・二%)」「山登り(四七・八%)」の参加経験が多かった。この先、みちのく潮風トレイル観光もその範疇となる「トレイル歩き」の参加経験率は

一四・三%であった。「トレイル歩き」は他の観光の種類と比較すると参加経験者が少ないものの、近年では各種媒体によって紹介されることも多くなり、参加者は増大すると考える。

## みちのく潮風トレイル 観光への参加意向と傾向

次に、みちのく潮風トレイル観光への参加意向とその特性を見る。

図5 みちのく潮風トレイル観光への参加意向 (n=3,596)



図6 ウォーキング観光への参加意向別の  
みちのく潮風トレイル観光への参加意向

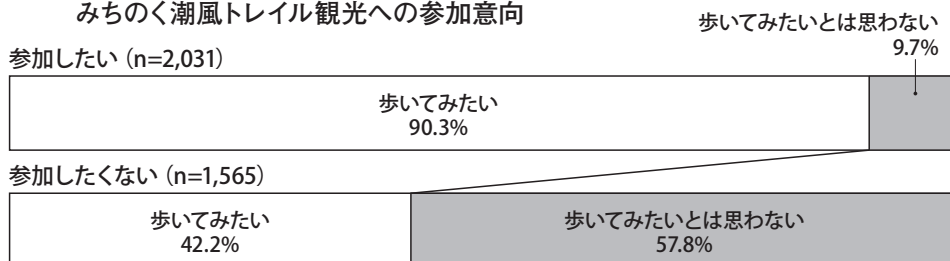
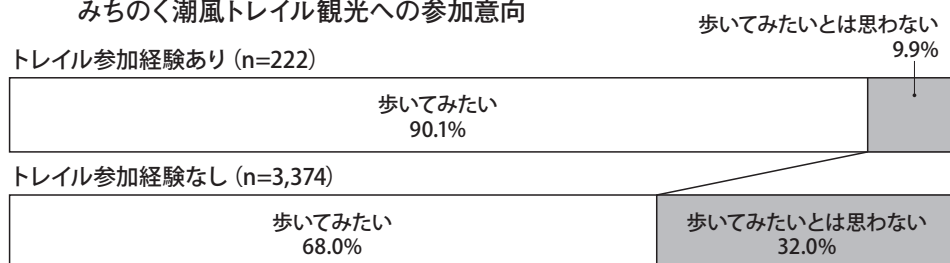


図7 「トレイル歩き」参加経験別の  
みちのく潮風トレイル観光への参加意向



みちのく潮風トレイル観光への参加意向

みちのく潮風トレイル観光(注3)への参加意向を聞いたところ、六九・三%が「歩いてみたい」と回答

した(図5)。これは、ウォーキング観光への参加意向(図4)より高い値である。また、ウォーキング観光への参加意向はないものの、みちのく潮風トレイル観光への参加意向のある人は四二・二%に上る(図6)。

次に、ウォーキング観光のうち「トレイル歩き」への参加経験別に、みちのく潮風トレイル観光への参加意向(図7)を見ると、「トレイル参加経験あり」のうち九〇・一%が「歩いてみたい」と回答した。また、参加経験がない人でも、六八・〇%がみちのく潮風トレイル観光への参加意向がある。

以上から、みちのく潮風トレイル観光だからこそ参加したい、みちのく潮風トレイルの意義や、これまでのトレイル歩きにはない魅力を感じている需要が相当程度存在すると考えられる。

「楽しんでみたいこと」

みちのく潮風トレイル観光で体的な期待を知るために「みちのく潮風トレイル観光で楽しみたいこと」を聞いた。

回答が多かったのは、「自然の雰囲気味わう(四一・九%)」「おいしいものを食べる(三五・〇%)」「温泉や地元銭湯に入る(三二・四%)」であり、次に「見たかったものを見る(二六・七%)」「現地の暮らしや産業にふれる(二五・一%)」と続く(図8)。

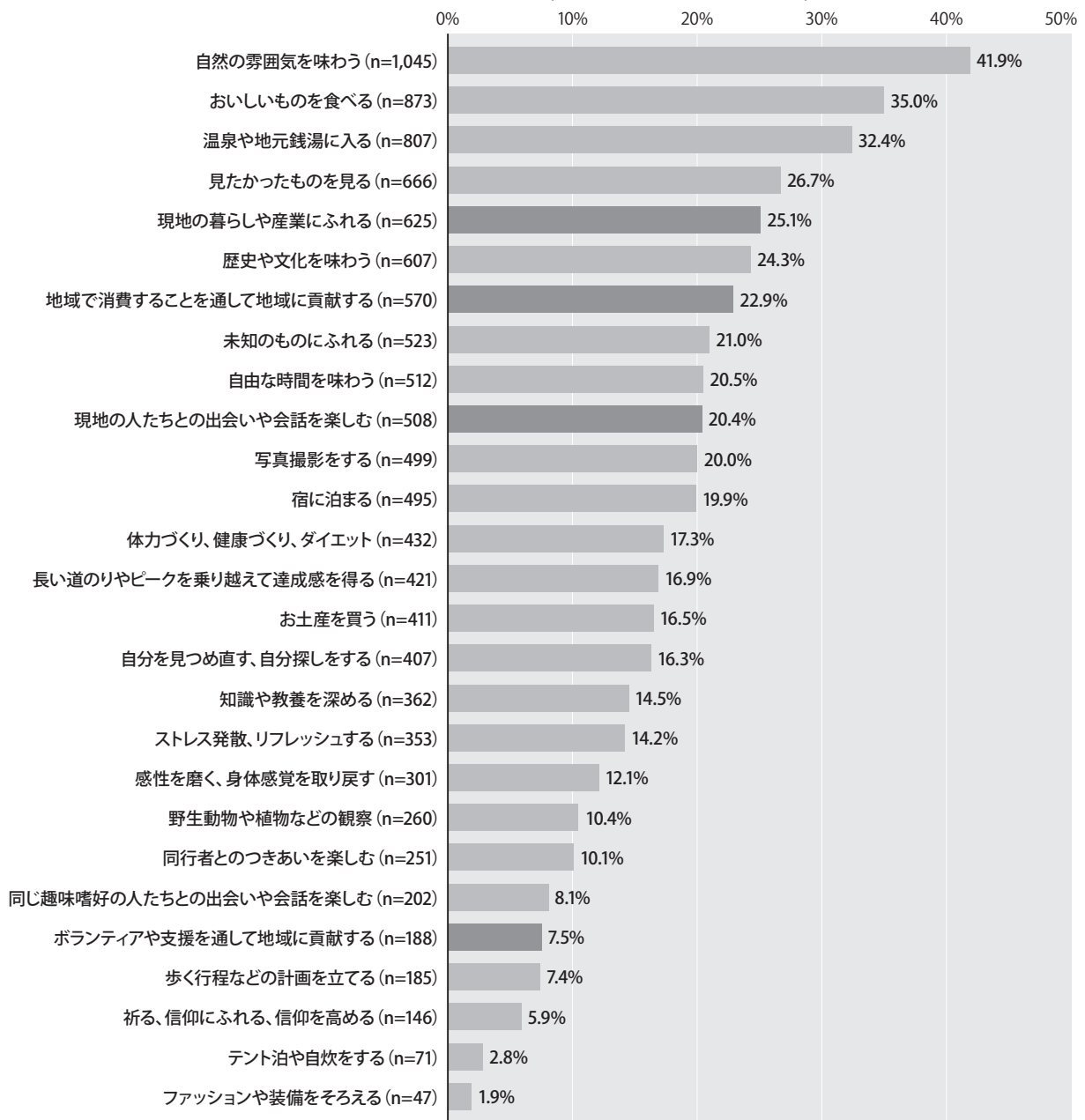
トレイル歩き本来の魅力である自然の楽しみや心身への効用だけでなく、一般的な観光の魅力や、地域の生活文化とのふれあいへの期待も大きい。

さらに、図8と同じ項目を「歩くことを中心とした観光 (n=2,031)」についても聞いているので、両者の回答割合を比較した(図9)。

両者を比較し、明らかにみちのく潮風トレイル観光で回答割合が高かったのは、「現地の暮らしや産業にふれる」「地域で消費することを通して地域に貢献する」「ボランティアや支援を通して地域に貢献する」「現地の人たちとの出会いや会話を楽しむ」の四項目であった(図8の網掛け部分も参照)。

これらはいずれも、地域との関わりを深めることに関する項目で

図8 みちのく潮風トレイル観光で楽しみたいこと (n=2,493 \*複数回答 MT=11,780)



ある。みちのく潮風トレイル観光では、東北とのつながりが強く意識されていると考えられる。一方で、東北とのつながりを重視している人であっても、一般的な観光を楽しむつつ無理なく地域に貢献したい人（「地域で消費することを通して地域に貢献する」）や、人々との出会い等を通じてじっくりと関わりたい人（「現地の暮らしや産業にふれる」「現地の人たちとの出会いや会話を楽しむ」）、ボランティアや支援を通してより積極的に関わりたい人（「ボランティアや支援を通して地域に貢献する」）まで、関わり方への期待は多様である。

**東北とのつながりを重視する需要**  
 前の四項目それぞれについて、これを重視するとした各属性（性別、性年代、職業、家族構成）とその特徴は次のとおりである（表2）。

①「現地の暮らしや産業にふれる」を挙げた人  
 女性（四十代、六十代）と、七十代以上男性、専業主婦（主夫）が多い。他に楽しみたいこととして、「現

図9 みちのく潮風トレイル観光で特に重視すること（\*複数回答／一部項目を抜粋）

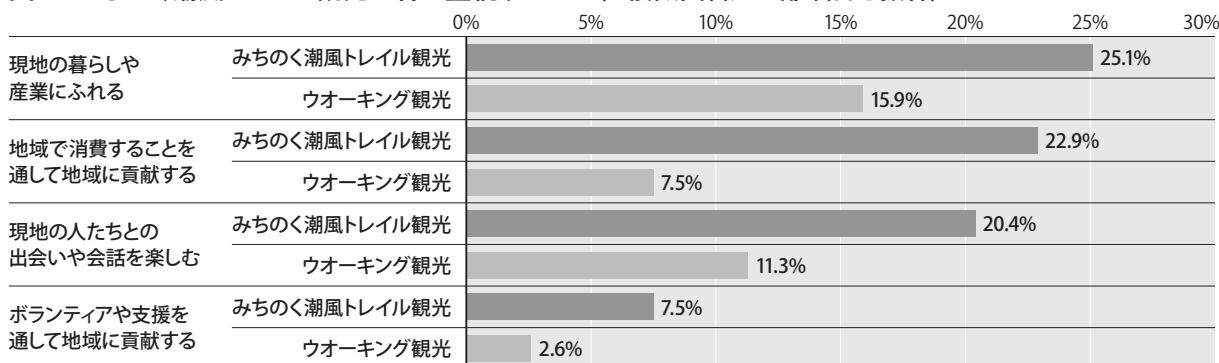


表2 地域との関わりに関する項目を重視している属性（注4）

①「現地の暮らしや産業にふれる」ことを重視している人（n=625）

性別	女性**が多い
性年代	70代以上男性*、40代女性*、60代女性**が多い
職業	専業主婦（主夫）**が多い
家族構成	夫婦だけの世帯**が多い
他に重視している項目	現地の人たちとの出会いや会話を楽しむ（60.0%） 歩く行程などの計画を立てる（49.2%） ボランティアや支援を通して地域に貢献する（46.3%）

②「地域で消費することを通して地域に貢献する」ことを重視している人（n=570）

性別	女性**が多い
性年代	30代女性*、40代女性**、50代女性**、60代女性が多い
職業	専業主婦（主夫）**が多い
他に重視している項目	温泉や地元銭湯に入る（54.9%） 自然の雰囲気を楽しむ（54.2%） おいしいものを食べる（51.8%）

③「現地の人たちとの出会いや会話を楽しむ」ことを重視している人（n=508）

性別	女性*が多い
性年代	70代以上男性**が多い
職業	専業主婦（主夫）*、無職**が多い
家族構成	夫婦だけの世帯**が多い
他に重視している項目	現地の暮らしや産業にふれる（60.0%） 自然の雰囲気を楽しむ（57.9%） 温泉や地元銭湯に入る（49.4%）

④ボランティアや支援を通して地域に貢献する」ことを重視している人（n=188）

性別	女性**が多い
性年代	10代女性**、20代女性*、40代女性*が多い
他に重視している項目	地域で消費することを通して地域に貢献する（75.5%） 現地の人たちとの出会いや会話を楽しむ（51.6%） 現地の暮らしや産業にふれる（46.3%）

地の人たちとの出会いや会話を楽しむ」「歩く行程などの計画を立てる」「ボランティアや支援を通して地域に貢献する」を挙げている。

②「地域で消費することを通して地域に貢献する」を挙げた人  
女性（三十代、四十代、五十代、六十代）、専業主婦（主夫）が多い。他に楽しみたいこととして、「温泉や地元銭湯に入る」「自然の雰囲気

を味わう」「おいしいものを食べる」を挙げている。

③「現地の人たちとの出会いや会話を楽しむ」を挙げた人  
女性（全年代）、七十代以上男性、夫婦世帯が多い。「現地の暮らしや産業にふれる」「自然の雰囲気を楽しむ」「温泉や地元銭湯に入る」を挙げている。

④「ボランティアや支援を通して

地域に貢献する」を挙げた人  
女性（十代、二十代、四十代）が多い。他に楽しみたいこととして、「地域で消費することを通して地域に貢献する」「現地の人たちとの出会いや会話を楽しむ」「現地の暮らしや産業にふれる」を挙げている。

いずれの項目においても女性が多く、男性については七十代以上の年配者が多い傾向が見られた。

## まとめと考察

意識調査を通じて、みちのく潮風トレイル観光では、過去にウォーキング観光やトレイル歩きを経験がない人であつても高く支持されていること、従来のトレイル市場よりも幅広い客層をつかめる可能性があること、またウォーキング観光の市場規模や、一般的なトレイルへの注目の増大を合わせると、みちのく潮風トレイルは東北観光に大きなインパクトをもたらす潜在力があると考えられる。

参加意向の特徴は、トレイル歩きの本来的な楽しみ方に加えて、東北とのつながりを重視していること、この傾向はとりわけ女性（幅広い世代）と年配の男性に強いこと、関わり方には、観光消費を通じた地域貢献からボランティア参加まで、意識に幅があることなどが浮かんできた。

このように、みちのく潮風トレイル観光には、従来のウォーキング観光やトレイル歩きの枠にとどまらない、固有の期待感が持たれている。これに応えるために、みちのく潮風トレイル観光の推進には次のような

展開を期待したい。

**トレイル歩きの初心者への対応**  
初心者向けの対応の充実が重要である。具体的には、

- ・事前の十分な情報提供（ウェブサイト／関連書籍の発行／各地での説明会の開催等）
- ・安全管理体制の充実（現地ガイドの安全管理スキルの向上／現地での緊急対応のマニュアル化等）
- ・初心者向けウォークイベントの開催（歩き方の指南／用具貸し出し／歩くこと＋α（地元食、自然体験等）の組み合わせ等）
- ・セクションハイカー（注5）への対応（各セクションと公共交通機関の接続／宿泊施設からの送迎等）等が考えられる。

**女性や年配者の参加を意識した対応**

女性や年配者の利用を意識した対応の充実が重要である。具体的には、

- ・安価で清潔感のある宿泊施設の充実
- ・心身のリフレッシュが出来るプログラム開発（早朝ウォーキン

グ&朝食体験／海が見える場所でのヨガ体験／銭湯めぐり等）

・地元食（旬の恵み、季節の郷土料理、それらを味わえる店等）に関する情報提供等が考えられる。

**東北との関わり方を重視する人への対応**

東北との関わり方を重視する人への対応の充実が重要である。具体的には、

- ・現地の暮らしや産業にふれる機会づくり（魚市場歩きや街なか歩きとの組み合わせ／震災語り部ガイドと歩き自然の恵みと脅威を学ぶ等）
- ・地域で消費することを通して地域に貢献する機会づくり（地域食材による弁当の開発／沿線の店舗や宿・博物館・ビクターセンター等を巡るスタンプラリー／ガイドマップや踏破証の開発・販売等）
- ・現地の人との出会いや会話を楽しむ機会づくり（地元方言ガイドの育成・雇用／仮設市場や漁師番屋等を活用したカフェ／地元住民とハイカーによる交流イ

ベントの開催等）

- ・ボランティアや支援を通して地域に貢献する機会づくり（歩道整備や補修への参加〔草刈り、海岸清掃、道標作り・設置〕等）／野生生物モニタリングへの参加／寄付金制度等）

本研究が、みちのく潮風トレイル観光と東北復興に向けての一助となれば幸いであり、引き続き研究活動を行っていききたい。

（よしやち ゆたか）

〔注1〕みちのく潮風トレイル公式サイト  
<http://www.tohoku-trail.jp/>

〔注2〕四季を通して手軽に、楽しく、安全に自然の足で歩くことを通じて、豊かな自然や歴史・文化とふれあい、心身ともにリフレッシュし、自然保護に対する理解を深めることを目的としています。『環境省「長距離自然歩道を歩こう!」より引用  
意識調査では、「東日本大震災の被災地のうち、青森県八戸市・福島県相馬市の海岸沿いに、数百キロにわたる一本の長い歩道『東北海岸トレイル』を造る構想。これは避難路を兼ねており、既存の道や埋もれている古道を整備して、海沿いの自然や、人の暮らし、被災の痕跡などをたどれるようにするもの」と記載した。

〔注3〕カイ二乗検定の結果有意（5%水準以上）の属性のみ抜粋。カイ二乗検定を実施（5%水準で有意、\*1%水準で有意。残差分析はHaberman法を使用（5%水準で有意、\*1%水準で有意）。

〔注5〕セクション（区間）に分けてトレイルを歩く人。各区間を気軽に楽しむ人や、何回かに分けてトレイルの全ルート踏破を目指す人などがいる。